

子どもの読書活動推進計画についての考え方

- ① 読書量日本一のまちづくりを目指しているが、量だけではなく読書の質を掛け合わせ、その効果を最大限に引き出す取り組みを行う
子どもたちが感じる読書の効果を調査し、その変化を指標とする

一方、質の高い読書に至るには時間がかかるため、幼児期からの絵本の読み聞かせを習慣づけ、本に親しむ環境を整え、大人が読書する姿を見せることが必要だと考える
よって、家庭には「家読」を推進し、家庭での絵本や読み聞かせに週1日以上取り組むことや親子読書を1日30分取り組むなどを目標としその割合の変化を指標とする
また、学校には「朝読」を推進し、みんなでやる・毎日やる・好きな本でよい・ただ読むだけの4つのポイントを周知徹底する

- ② 質の高い読書は、新しい知識(学び)を自分に落とし込み、自分で考えることにつながる。
アウトプットすること(場)を指標にできるのではないかと考え、調べる学習コンクール・ビブリオバトル・ブックトーク・アニメーション・ディベートなどに取り組むまたは、学校での取り組みを支援する
- ③ 本に親しむ環境を整えるため、まちライブラリー・学校の図書室開放の積極的な支援を行う。読書拠点を増やすことで、 $[\text{まちぐるみ図書館拠点} \div \text{市の面積} = \text{読書支援度}]$ と表し、その変化を指標とする

以上3つから目標を設定し、家庭・学校・まちライブラリーを泉大津市立図書館がまるごと支援するイメージ。

☆ターゲット別の計画概要版を作成する